

聖書

全学年 課題コースA・B



課題コースA <教会と礼拝に親しもう>

課題の内容・取り組み方

教会の礼拝または教会学校、日曜学校に出席してその内容や感想をレポートする。

1. 出席した教会名、教会の所在地
2. 礼拝（日曜学校、教会学校を含む）のプログラム。
3. 説教（奨励・お話）の要約と感想。
4. その教会の歴史
5. その教会が礼拝以外に取り組んでいること
6. 礼拝の印象や教会の様子など。

○初めて教会に出席する場合や出席する教会が未定の場合は、個別に相談します。

○今までの生徒作品は『きささげ』に掲載されています。ぜひ見てください。

課題コースB <新島襄・同志社について調べよう>

課題の内容・取り組み方

各自でテーマを設定し、関連書籍、インターネット等で調べたり、フィールドワーク（現地調査）で調べたことをレポートする。

○今出川キャンパス（重要文化財指定建造物、Neesima Room）、新島旧邸、同志社共葬墓地など、新島や同志社に関する資料展示や建造物を見学してみよう。

○生誕地（東京都千代田区神田）、新島家のルーツ（群馬県安中市）、箱館航海寄港地（青森県風間浦村）、渡航の地（北海道函館市）、熊本バンドのルーツ（熊本県熊本市）、終焉の地（神奈川県大磯町）、新島旧邸（京都市上京区）、同志社共葬墓地（京都市左京区）など、新島・同志社ゆかりの地を訪ねてみよう。

教会にもいろいろあります！



同志社教会 (京都市上京区新北小路町)



京都教会 (京都市中京区富小路通二条下ル)



京都葵教会 (京都市左京区下鴨下川原町)



平安教会 (京都市左京区岩倉東五田町)



カトリック河原町教会
(京都市中京区河原町三条上ル)



京都丸太町教会 (京都市左京区丸太町通川端東入)



洛西教会 (京都市北区大將軍川端町)

新島襄・同志社ゆかりの地もいろいろです！



チャペル (今出川キャンパス)



ユンドンジュ詩碑 (今出川キャンパス)



新島旧邸



同志社共葬墓地 (若王子山頂)



新島襄海外渡航の地碑 (函館市)



新島襄寄港記念碑 (風間浦村)



熊本バンド奉教の碑 (熊本市)



新島家旧邸 (安中市)

日本基督教団同志社教会とニュージーランド・キングスウェイスクールの礼拝に参加して

2017年度 3年G組 白須賀 俊彦

ぼくが夏の自由研究で教会での礼拝の様子を書くようになって3回目になります。この夏ぼくはニュージーランドにあるキングスウェイスクールにターム留学をすることになり、夏休みの少し早めですが、昨年にひきつづき「同志社教会」の礼拝に参加してきました。昨年はファウラーチャペルが工事のため会場が同志社神学館礼拝堂に変更になっていたのですが今年はファウラーチャペルでの礼拝に参加することができました。

またターム留学先のニュージーランドでは、同じホームステイ先だった韓国人の中学生に日曜礼拝に誘ってもらい、外国での礼拝にも参加することができました。

1. 同志社教会での礼拝

〔礼拝堂〕

同志社栄光館 ファウラーチャペル

〔牧師館〕

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町 636-5

(1) 参加日時

2016年7月17日(日) 午前10時30分～

栄光館に入ると時代の重さを感じる木製の扉があり、その中に入ると同志社中学校とはまた違った伝統を感じるようなチャペルでした。後方2階席にはパイプオルガンがあり、重厚な音色で前奏が奏でられていました。礼拝堂はとても広く、参加者が30人、40人くらいいられていたのですがほんの少しに感じるくらいでした。天井からはスズラン状のシャンデリアがいくつも釣り下がっていました

(2) 礼拝の内容

司式者 日下部健介

説教者 望月修治

奏楽者 津田能人

前奏

招詞 ヨハネによる福音書6章48-51節

頌栄 24「たたえよ、主の民」

主の祈り 93-5-C

交読詩編 詩77編5-16

讃美歌 201「天使のことばも」

聖書 ローマの使途への手紙 14章10-23節(新約p.294)

祈祷

讃美歌 56「主よ、いのちのパンをさき」

説教 「他者の気持ちの宛先」 牧師 望月修治

祈祷

讃美歌 492「み神をたたえる心こそは」

使途信条 93-4-B

献金

献金祈祷

讃美歌 91「神の恵みゆたかに受け」1番
祝祷
応答唱 聖歌隊
後奏

(要約)

「他者の気持ちの宛先」はパウロがコリントで書いたローマ信徒へ宛てた手紙です。当時のローマの教会では“弱者”と呼ばれていたグループと“強い者”と呼ばれるグループが対立をして、互いに立場の違う相手を軽んじたり裁いたりしていました（この“弱者”“強い者”は単に力が強い弱いということをしていて、信仰理解の違いや立場の違いによって分けられたグループを表す呼び方です。）。片方のグループは一年の中で特別の日をつくり大切にしなければならぬと考え、また野菜だけ食べるという立場にたつグループもありました。これらは福音理解の違いに原因があったため、自分の立場を変えられませんでした。パウロはこの状況を憂い、「もう互いに裁き合わないようにしましょう」とローマの教会の人達に宛てて手紙を書いたのです。

「互いに裁き合わないようにしましょう」とはどうしたらいいのか。それは「つまずきになるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心することだ」と書かれています。「つまずきになるもの」とは人をつまづかせるためにわざと邪魔物を置くことです。「妨げとなるもの」とは道に転がっている石のように偶然にある妨げのことです。

今のこの時代も、国と国の間で、民族と民族との間で、学校、家庭で… こうした“つまずきになるもの”を意図的にわざと置くことが起きるのです。

ぼくはこの牧師さんの話しを聞き、自分のまわりの“つまずきなるもの”を考えてみました。テスト前のテレビ、スマホ、タブレット…。かわいいものです。でも地球レベルでは、“弱者”“強い者”両者の言い分から戦争、テロを引き起こしています。この両者の言い分を主張する人達に、この「パウロからの手紙」の真意を理解してもらい、“やられたらやりかえす”負の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいかを考えるのが、僕らが今すべきことなのだと思います。

(3) 同志社教会の歴史

- 1876年 同志社の創立者である新島襄の仮寓において「西京第二公会」を設立
- 1886年 同志社礼拝堂の完成。名を「同志社教会」と改める。
- 1945年 同志社神学館（現在の同志社大学クラーク記念館）講堂に移す。
- 1946年 主たる礼拝場所を同志社栄光館ファウラーチャペルに移す。



礼拝壇上



パイプオルガン

←ファウラーチャペルと礼拝の案内板

2. キングスウェイスクールでの礼拝

2016年7月31日（日）朝。同じ家にホームステイをしている韓国人の人とその友人（韓国人）と一緒に、その友人がステイしているホストファーザー（ニュージーランド人）に教会に連れて行ってもらいました。ぼくはどこの教会に行くかも聞いていなかったのも何も知らないまま車に乗り込み車窓を見ながらのどかな景色を楽しんでいました。到着したのがキングスウェイジュニアキャンパスレセプションという建物でした。ぼくは通常ハイスクールの校舎を使用していたので、小学校の校舎は初めてで新鮮でした。連れて行ってもらった場所は小学校の体育館らしいところでした。

（1）礼拝の様子

体育館の中、中央正面壁に木で作られた十字架が立てかけられていました。その前に燭台が作られ、壁面にプロジェクターで創作の歌の歌詞を映していました。当然だけどすべて英語での礼拝でした。礼拝では、聖書の朗読や讃美歌を歌うことはありませんでした。

礼拝は最初創作の歌からはじまり、司会者のあいさつ、近況の話がありました。その後一度休憩をはさみ、その間中学生、高校生は隣のロビーに集合し、現地の住民信者から聖句の説明と説教を聞きました。そこではキングスウェイスクールの韓国人の先生が韓国語で通訳をしてくださったのですが、ぼくは韓国語を聞き取ることはできなかったのてどういう説教かもあまり知りできませんでした。

礼拝堂に戻った後はみんなで大人も子供も手をつないでひとつの円になり、歌をうたって祈りを捧げました。

礼拝が終わった後、クッキーや紅茶、コーヒーがふるまわれました。今回の礼拝でギターの演奏を披露していたのが、連れて行ってくださった友人のホストファーザーでした。

（2）キングスウェイスクール学校紹介

キングスウェイスクールは1986年に設立されたキリスト教主義の学校で、小学校から高校まで同じ敷地内にあります。オークランドから車で約1時間。オレワというところにあり、学校の近くには海があります。世界中から留学生が在学していて、中国、韓国はもちろん南アフリカ、ロシア、フィリピン、スペインなどからも留学生が来ていて、ぼくもたくさんの友達ができよい経験ができました。



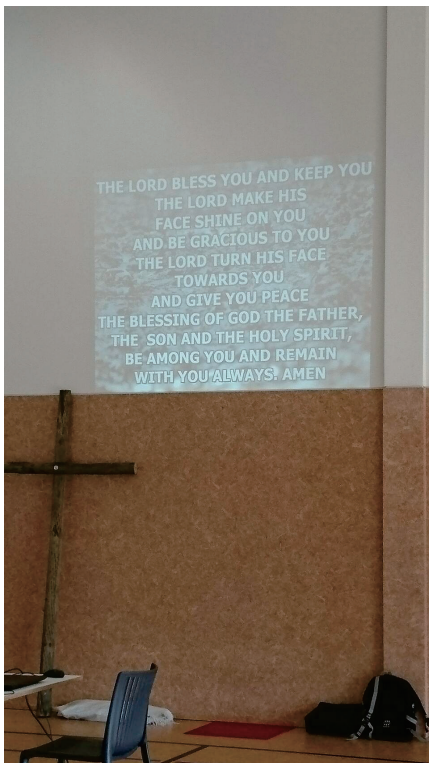
学校の校舎



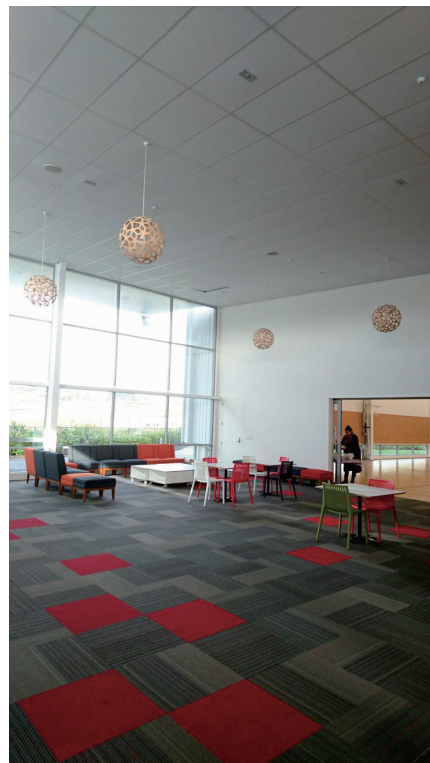
体育館入口



礼拝室



木製の十字架とプロジェクター



ロビー



音楽演奏

【参考】

日本基督教団同志社教会ホームページ

<http://www012.upp.so-net.ne.jp/doshi-ch/>

キングスウェイスクールホームページ

<http://www.kingsway.school.nz/>

【コメント】

三年連続で礼拝レポートに取り組んでくれました。日本だけでなく海外の礼拝の様子が生き生きと伝わってくる優れた作品です。これからは宗教に対する理解と寛容が求められる時代です。キリスト教だけでなく他の様々な宗教に関心を持ち、そこで生きている人々の文化や生活様式を尊重する感性を培って欲しいと思います。(聖書科：桜井希)